

## 平成25年度 東洋学研究情報センター共同研究課題年次実績報告書

※この報告書はHPなどで公表されます。

### 1. 研究課題名

日本漢籍集散の文化史的研究―「図書寮文庫」を対象とする通時的蔵書研究の試み―

### 2. 申請研究者

(氏名) (所属・職名)  
住吉朋彦 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 教授

### 3. 申請者以外の共同研究者

(氏名) (所属・職名)  
大木康 東京大学東洋文化研究所 教授  
小倉慈司 国立歴史民俗博物館 准教授  
金文京 京都大学人文科学研究所 教授  
佐藤道生 慶應義塾大学文学部 教授  
高橋智 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 教授  
陳捷 国文学研究資料館 教授  
堀川貴司 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 教授

### 3. 研究期間

平成24年4月1日から平成26年3月31日(2年間)

### 4. 課題の概要

本研究は、日本に伝来する漢籍が、日本文化の形成にどのように寄与したかを明らかにするために構想された。また目標達成のため、日本漢籍を、伝来を同じくする群、即ち蔵書として捉え、個別の伝本を蔵書の中に位置付け、蔵書ごとに日本文化との関わりを観察する方法を用いた。蔵書は静止せず、集散する性質をもつから、伝本の調査を重ね、その集散を捉えることが、研究の基礎として要請された。また研究の対象として、宮内庁書陵部図書寮文庫収蔵の漢籍を選んだ。これは図書寮文庫が、江戸幕府紅葉山文庫の善本を引き継いでおり、さらに紅葉山文庫を通じ、中世以前の金沢文庫本等の一部を保存し、日本漢籍史上最重要な蔵書と認められるからである。また図書寮文庫には、江戸幕府昌平坂学問所収蔵の善本や、同教官古賀家の蔵本他、近代以降、皇室に献上された諸家の図書を収蔵し、それぞれ日本漢籍を含むことから、同様に調査の対象とした。但し対象とする図書は膨大であるため、日本文化史の古層に関係する、中世以前伝来の漢籍を当面の対象とした。この研究を成し遂げるため、文献学を専門とする研究者を集めたが、さらに大学院生を含む若手研究者に原本調査方法の研修を実施して参加を促し、態勢の拡大に努めた。また調査結果を個別にも公開するため、伝本の書誌と全文の影像を提供するデータベースの作成を実行した。こうした実態により、本研究では、図書寮文庫収蔵漢籍の伝本に書誌調査を加え、伝来の経緯と伝来中の漢籍習学の痕跡を記録、集積し、蔵書の転変を明らかにした。

### 5. 今年度の研究実施状況

今年度も、図書寮文庫の原本調査を行い、旧鈔本、宋刊本について70種697点の書誌データを著録した。これらの内容について、調査担当者が他の伝本との比較研究を行った後、計7回の検討会を開いて、参加者全員による点検を行い、25種398点についてデータを確定した。これにより、漢籍四部に涉って書誌データを蓄積したが、中でも経部18種146点を完了したため、昨年度来開発してきたデータベースに実装することとした。データベースのシステム開発は、昨年度の基礎工作に加え、今年度の経部実装に際し、書誌全文や版本刻工等の検索項目、著録基準箇所の書影抽出等、表示機能を追加し、インターフェースの改善を施して、実用性を高めた。原本の写真画像取得の方面では、既存のデジタル画像に加え、マイクロフィルムスキャンの手法により、宋版大般若経9410カットのデジタル画像を収集した。その結果、年度の後半にデータベース製作の報告を行うに至った。

## 6. 今年度の研究成果の概要

本研究の今年度の成果は、まず原本調査に基づく図書寮文庫蔵漢籍旧鈔本、宋刊本25種について検討を加え、書誌データを補訂すると同時に、解題研究を進めたことにある。その結果、中世の金沢文庫蔵書形成の一端や、幕末の紅葉山文庫の蒐集、近代に於ける禅院蔵書の流通と皇室の收藏など、各段階に於ける蔵書形成と漢籍集散の動態が、立体的に把握された。これらの成果は、まず書誌データとそれに基づく目録の記述に集約した。その内容は四部に渉るが、特に経部について著録を完了した。データを収録するデジタルアーカイブ「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」の開発では、各画面に於ける改善が進められ、特に書誌データベースは、著録の根拠となった箇所を書影を表示する機能を備えたことで、書誌書影データベースに成長した。さらに学術的使用を想定し、書誌書影と全文影像を相互に参照できるよう変更を加えた。これらの成果は、25年12月7日に東京大学東洋文化研究所で行われた報告会に於いて、6件の研究報告と、デジタルアーカイブの紹介として公表された。

### 7-1. 共同利用・共同研究活動の状況

#### (1) 共同研究のための研究会、シンポジウム等の実施状況

開催期間	形態(区分)	対象	研究会等名称	概要	参加人数
H25.4.13	研究会	国内	書誌データ検討会	書誌4件の検討と、レクチュア「初期図書寮蔵書の問題点について」	13
H25.5.17	研究会	国内	書誌データ検討会	書誌5件の検討	11
H25.7.5	研究会	国内	書誌データ検討会	書誌3件の検討	12
H25.9.19	研究会	国内	書誌データ検討会	書誌3件の検討	11
H25.10.18	研究会	国内	書誌データ検討会	書誌5件の検討	10
H25.11.28	研究会	国内	成果報告予習会	研究成果報告会の予行演習と、研究発表内容の検討	12
H26.1.31	研究会	国内	書誌データ検討会	書誌3件の検討	10
H25.3.7	研究会	国内	書誌データ検討会	書誌2件の検討と研究発表「漢籍の伝授—金澤文庫本『春秋経伝集解』を例として—」	11

※対象が国内研究者向けの場合は「国内」、国際的な研究会等は「国際」、一般の方向けの場合は「一般」と記入して下さい。

(対象が重複する場合は、両方記入して下さい)

#### (2) 上記(1)の研究会、シンポジウム等の参加状況

区分	平成25年度						
	機関数	参加人数			延べ人数		
		外国人	大学院生		外国人	大学院生	
東京大学内	1	1	0	0	8	0	0
国立大学	1	1	1	0	6	6	0
公立大学	0	0	0	0	0	0	0
私立大学	2	9	1	5	46	2	24
大学共同利用機関法人	2	4	2	1	14	10	5
独立行政法人等公的研究機関	1	1	0	0	7	0	0
民間機関	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	2	0	0	9	0	0
計	9	18	4	6	90	18	29

※参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※外国人、大学院生の人数はそれぞれ参加人数、延べ人数に対しての内数を記入して下さい。

※「東京大学内」の所属機関数は「部局数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

1. 1つの共同利用・共同研究課題で2人が3日間参加した場合：参加人数2人、延べ人数6人

(3) 共同利用・共同研究に供する施設・設備及び資料等の利用状況等

○データベースの作成・活用・利用・公開状況

	データベース名	蓄積情報の概要	公開方法	蓄積量／利用・提供状況	
				蓄積量	
1	デジタルアーカイブ「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」	図書寮文庫収蔵漢籍の書誌データ及びそれに基づく分類目録と、分類目録に附属する全文カラー写真画像	将来のインターネット公開を想定した、研究所内独立機試験公開	蓄積量	50.4GB
				利用(アクセス)件数	公開予定

※カウントできないものについては欄外にその理由を記入して下さい。

(4) 独創的・先端的な学術研究を推進する特色ある共同研究活動

デジタルメディアの使用を前提とした漢籍書誌調査の方法を模索し、紙上の著録を併用して水準を保ちつつ、デジタル環境に応じた統一も行った。全文写真画像の併用により、詳細な著録について便宜を得る一方、書誌データに画像データを担保する機能を有たせた。またデジタルデータによって研究情報の共有が容易となり、漸次書誌学的検討の開放がなされている。そうした前提のもと、漢籍の伝来と受容に焦点を置き、原本そのものの研究を中心としたことで、中国学、日本学各分野の研究者が参加し、知見を集めることができた。

(5) 国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況

東京大学東洋文化研究所と、研究代表者の属する慶應義塾大学附属研究所斯道文庫の双方を幹事機関と位置付け、研究メンバーの研修や個別の研究に後者の機能を、データの検討や総合と成果の公開に前者の力を借りるなど、役割分担を行ったことで、双方の関係者がメンバーに連なった。また研究情報の共有公開を踏まえ、大学共同利用機関在籍の研究者にも参加を要請した。さらに研究所間、私立大学間の既成の協力態勢を利用し、関係事業、関係講座の参加者、修了者の参加を進めた。

(6) 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組

大学院在籍者や、それに相当する若手研究者に対し、経験的スキルを含むと見られる古典籍原本書誌調査の方法を、原本を所蔵する機関の利点を活かして指導した。具体的には、研修プログラムを用意して、一定期間の修了を以って調査事業に関わらせ、報告されたデータをさらに補訂し、メンバーの検討を加えることで、その精度を上げ、熟練を進める方策をとった。

(7) 関連分野発展への取組(大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築 等)

日本学術振興会科学研究費補助金による基盤研究(A)「宮内庁書陵部収蔵漢籍の伝来に関する再検討—デジタルアーカイブの構築を目指して—」との協力関係を有ち、稀少本のデジタル化公開にシステムの基礎を提供し、稀少本に限らないデータ公開を促している。その成果を核に、京都大学人文科学研究所運営の「全国漢籍データベース」とのデータ共有を目指し、宮内庁の運用する「図書寮文庫所蔵資料目録・画像公開システム」との接属を視野に入れている。

## 7-2. 共同利用・共同研究による研究成果

(1) 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数(参加研究者がファーストオーサーであるものを対象)

区分	平成25年度	
論文数		
うち国際学術誌に掲載された論文数	14 (12)	0 ( )

※下段の( )内には、東文研以外の研究者による成果(内数)を記載。

(注)分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で以下に記入して下さい。

役割	文献調査の指導、調査研究全般の指導を行った		
区分	平成25年度		
論文数	13		
うち国際学術誌に掲載された論文数	(13)	( )	

※下段の( )内には、東文研以外の研究者による成果(内数)を記載。

(注) 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なもの  
 ※ 東文研以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

(注)インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下にインパクトファクター以外に顕著な業績と判断できる適切な指標とその理由を記載の上で、掲載雑誌名等を記載。

※ 東文研以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由		主なもの	
掲載雑誌名	掲載論文数	論文名	発表者名

(2) 共同利用・共同研究による特筆すべき研究成果(特許を含む)

デジタルアーカイブ「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」
-------------------------

※共同利用・共同研究による国際的にも優れた研究成果や産業・社会活動等に大きな影響を与えた研究成果についてご記入ください

(4) 7-1(1)以外の公開講座、公開講演会等の実施状況

シンポジウム・講演会		セミナー・公開講座		その他		合計件数
開催期間	形態(区分)	対象	公開講座等名称	概要		参加人数
件数	1					1
H25.12.7	公開講演会	一般	「日本漢籍集散の文化史的研究—「図書寮文庫」を対象とする通時的蔵書研究の試み—」成果報告会	宮内庁書陵部図書調査官小森正明氏による講演と、研究参加者による研究報告6件、研究代表者によるデジタルアーカイブ「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」の紹介		76

※対象欄について、国内研究者向けの公開講座等の場合は「国内」、国際的な講演会等は「国際」、一般の方向けの場合は「一般」と記入して下さい。(対象が重複する場合は、両方記入して下さい)